シーワールドのアニマル達

## ◎オーストラリアアシカ

当館では、２種類のアシカ達を飼育しています。一つは、世界の動物園、水族館で一般に飼育されている「カリフォルニアアシカ」であり、もう一つは、今回紹介する「オーストラリアアシカ」です。このオーストラリアアシカは、大変美しい毛なみをしたアシカで、沖縄国際海洋博覧会開催時には、オーストラリア館で特別展示されていましたが、その後、南オーストラリア政府の好意により当館が寄贈を受けたもので、日本では当館にしか飼育されておりません。

このアシカは、オーストラリア西南岸のみに分布し、生息数は約2000頭でオーストラリアの保護動物となっています。

当館にいるオーストラリアアシカは、オス２頭メス１頭の３頭です。カリフォルニアアシカと比べると、頭や鼻部ががっしりしていて、毛の色が淡くきれいで、四肢が短かく、全体にずんぐりした体型をしています。また、性格は、好奇心が強くものおじせず、大変人なつっこい動物です。（清水記）

### 昭和５３年夏季催し物について

## 鴨川シーワールド夏祭り

梅雨明け、シーズンに入りますが、シーワールドでは、ご来園のお客様に楽しくお過しいただこうと今年の夏は次のような催し物を企画致しましたのでお知らせいたします。

１．氷の彫刻

全日本氷の彫刻コンクールで第２位の実績を持つ、高山研志氏を招き、氷の彫刻実演と作品展示を致します。

期間　８月１日～８月10日（午前１回、午後１回）

２．金魚、ヨーヨーつり

夏の風物として、金魚、ヨーヨーつり並びに風鈴、ウチワ等の即売会をおこないます。夏の１日を昔なつかしい縁日気分を味わっていただくコーナーです。　期間　７月30日～８月20日

３．磯の生物タッチングコーナー

海の魚・磯の生物（ウニ、イソギンチャク）等、海の生物を実際に手でさわって親しんでいただくコーナーです。

４．サマースクールの開校

海の生物に関して飼育係が指導いたします。（各回申し込み制をとりますので早目にお申し込み下さい。）　期間　８月１日、２日、３日、４日、５日、６日。

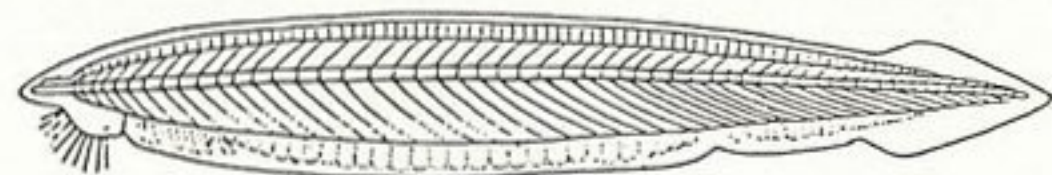
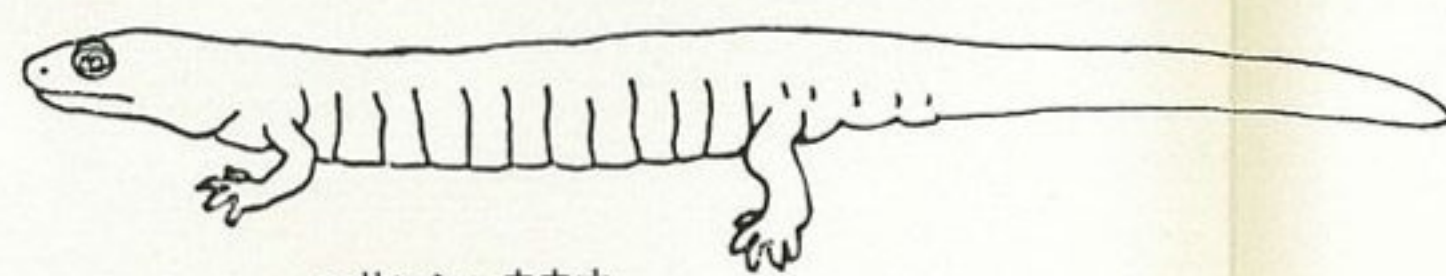
### 鴨川シーワールド動物友の会ニュース

シーワールドオープン以来、多数の皆様に御賛同いただき、会員数も現在では350名に達し、毎月最終土曜日に開催いたしている月１回の例会もおかげさまで盛況のうちにおこなわれております。会員募集はいつでも出札窓口で受付けておりますのでこの機会に是非ご入会をお待ち申し上げております。

1. 年会費　A会員（大人）年額　3,000円
　　　　　B会員（小人）年額　1,000円
2. 特　典　a.会員は会員証を提示することにより入園料は無料です。
　　　　　b.月１回（毎月最終土曜日）の月例会に自由に参加できます。

南房総国定公園
鴨川シーワールド
〒296 千葉県鴨川市東町1464－18　TEL 04709 (2) 2121（代）

# さかまた

生物の豆辞典　1978・7—No. 12

●ナメクジウオ　　図.1　　●サンショウウオ

## ◎さかなとは…………

時々、皆さんから〝さかなはどうしてさかなというのか？〟という質問があります。そこでさかなについて簡単にお話しいたしましょう。

魚の字は一般に〝さかな〟と読んでいますが、〝うお、ぎょ〟と読むのが正しい読み方です。魚を〝さかな〟と読む場合は当用漢字表の音訓表の音訓と一致しない間違った？読み方ということになります。

魚という字を昔は何と読んでいたのかを調べてみますと〝な〟とか〝いを〟〝うを〟と読んでいたようです。現在でもこの読み方は真魚の祝とか真魚始(小児に始めて魚肉を食べさせる儀式)。俎板(〝まな〟は真魚、〝いた〟は板）などで〝な〟と使われています。ちなみに鯨の事を昔は勇魚と呼んでいました。

それでは、昔からさかなとは何を指して呼んでいたのでしょうか。日本では肴の字を〝さかな〟と読みます。この語原を探ってみますと穀物以外の副食物の事で、本来は酒に添えるものの意で〝さか〟は酒、〝な〟は魚または菜に通じます。そこで、この肴として主流をなしていた物の歴史を調べてみますと、平安時代から室町時代の酒宴では、肴として服飾品や武器などが使われていたようです。安土桃山時代には歌謡舞踊を主従こもごも演じる事が流行、歌謡舞踊の演技が酒の肴として使われました。江戸時代中期になると社交的な宴会が盛んになり、歌謡舞踊は専業の歌妓、幇間達に代演させ、酒の肴といえば主人自身が漁猟したものや、遠来の珍品、海の幸、山の幸などの心尽くしの物を指すようになりました。それまでは簡素な添物であった副食物の魚菜がやっと肴の主流となり、挟肴、引肴、取肴など日本料理の作法も生まれました。そして味覚上、魚介類が主用されるので、さかなといえばいつとはなく魚類を指し、魚類の異名になったと考えられています。京都方面では今でも「うお」と「さかな」を区別して正しく使い分けている人達がいるそうです。また、幼児がさかなのことを〝おとと〟と呼ぶのは、酒を注ぐ時に〝オットット〟というのをまねた、肴をねだる幼児語が原義ともいわれています。〝さかな〟は魚の俗称であり、〝さかな〟はなぜ〝さかな〟と呼ぶのか、理解できた所で分類学の魚について、お話しいたしましょう。ナメクジウオとかサンショウウオは、魚類でしょうか？両方とも名前の最後にウオが付いていますが、ナメクジウオは無脊椎動物から脊椎動物への移行形で、脊索のみで背骨も頭骨もない原索動物の仲間であり、サンショウウオは脊椎動物ですが、カエルと同じ両棲綱に属し、共に魚類ではありません。(図１参照)

一般に魚類とは脊椎動物中、最も古い時代に出現し、原則として水中に棲み鰓で呼吸し、周囲の温度で体温が変わり、５本の指のある四肢を持たず鰭を持ち、卵を産み、皮膚に鱗がある動物の呼び名です。このような広い意味での魚類（Pisces）と言うのは、両棲綱、爬虫綱、鳥綱、哺乳綱を包含する大動物群の四足動物（Tetrapoda）に匹敵する大きな群ということになります。(図２参照)

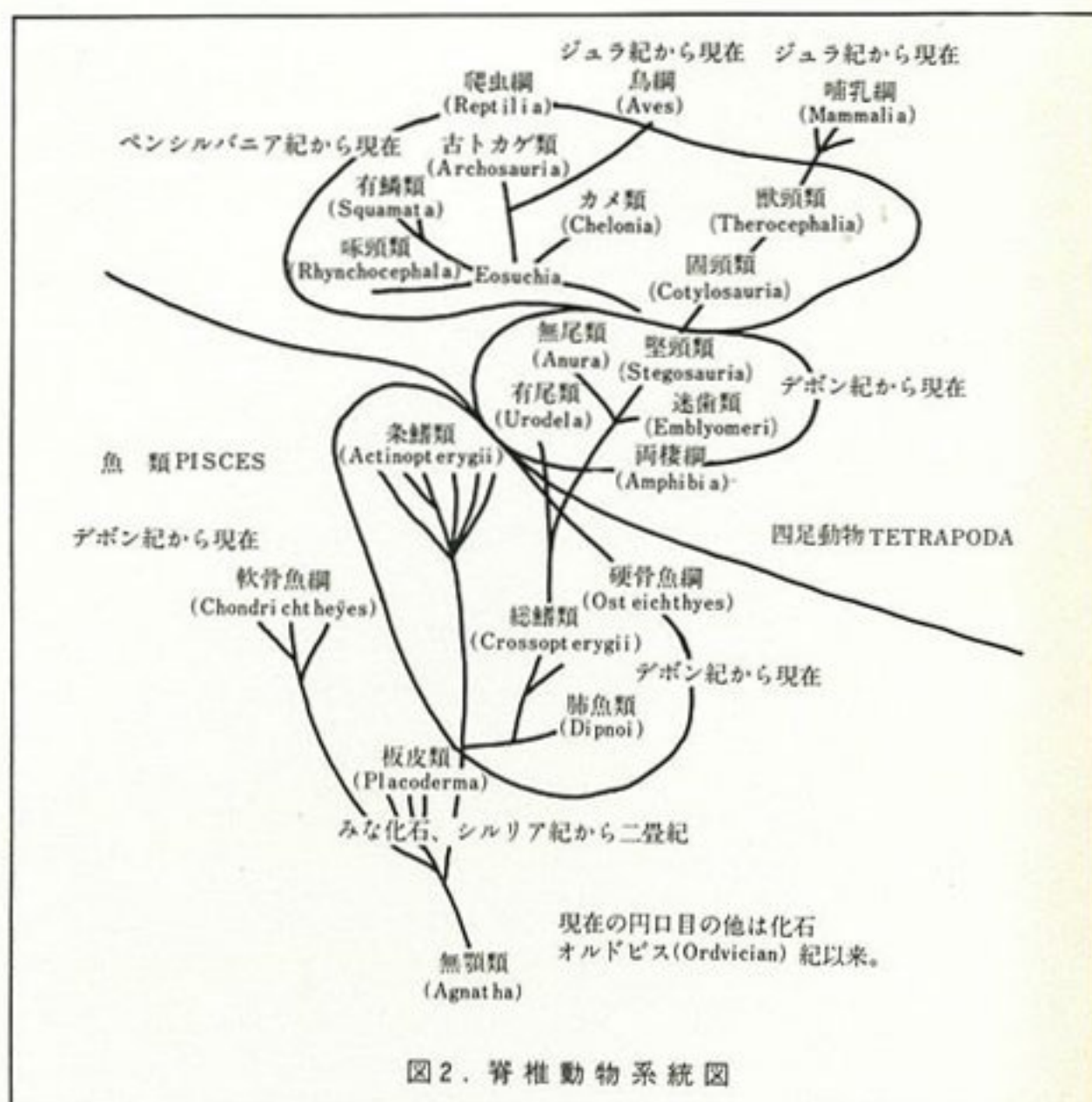



図２. 脊椎動物系統図

しかし、数億年にもわたる魚類の歴史に現われた何万種類もの魚類を調べて行きますと、あまりにもかけ離れた体制を持っているため広義の魚類から無顎類を除いたものを魚類と呼んだり、また、さらに狭い意味では、サメやエイの仲間の軟骨魚を除いた硬骨魚の仲間のみを魚類と呼んだりすることがあります。硬骨魚の仲間は現在、17,600種（30,000種以上という人もいる）ぐらいあり、大部分が条鰭類に属します。条鰭類は進化の途上に２つの停止点があったと考えられています。これはイワシ類（ニシン魚群）とスズキ類（魚群）に代表されており、２魚群の中間に類縁関係の明らかでない中性魚群を入れ、大きく３グループに分類しています。淡水魚の大部分（コイ類、約3,000種、ナマズ類、約2,000種）は、第一群のニシン魚群に属し、海水魚の大部分は第三群のスズキ魚群（約7,500種）に属します。

これで魚類の分類学についてのお話しは終りますが、魚の種類は毎年化石種も含め、100種以上も発見され続けておりますので、発達段階の過程については、色々な学説があり定っていないといってよいでしょう。

（榊原記）

### 表紙説明

長い鰭を持った魚、イトヒキアジAlectis ciliarsの幼魚

魚には背鰭、胸鰭、腹鰭、臀鰭、そして尾鰭の５つの鰭がありますが、その形は、魚の種類によって色々と変化しています。イトヒキアジも変り者の一種で、幼魚期から若成魚迄の間、背鰭と臀鰭を糸状に長く伸ばし、実に優雅に泳いでいます。この鰭を長く伸ばす理由は、はっきり判っていませんが、実際の体より数倍大きく見せて、他の魚に食べられるのを防いでいるのかも知れません。（榊原記）

飼育記録を更新中のアンコウ

## トピックス

### ◎魚を釣る魚!?　アンコウ

アンコウは日本近海では我国沿岸から朝鮮半島にかけて、数100 mの海底に住んでいるグロテスクな形をした魚です。アンコウという名前は皆さんも一度は耳にしたことがあると思いますが、それでは生きている姿は……というと、この魚は水族館で飼育を試みても１～２週間で死んでしまうほど飼育がむずかしい種類ですのでほとんどの人はお目にかかったことがないことと思います。当館では1974年からアンコウの飼育に取り組んできましたが1978年２月に日本で初めて周年飼育に成功し、４月より一般公開を始めました。現在、餌としてイワシを与えていますが、ここでは一風変ったアンコウの餌の食べ方について紹介してみましょう。

水槽内のアンコウは、時々大きな目をキョロキョロと動かす以外はほとんど動くことが見られませんので死んでいるのでは？……と間違えられることがあります。しかし、餌のイワシを見つけると、頭の上にある釣り竿のような背びれを盛んに振り始めます。しかも背びれの振り方は決して一定ではなく、大きくゆっくりと振ったり小刻みに速く振ったりしてたくみにイワシをさそいます。そして振られている背びれを餌だと感違いして近づいて来たイワシを目にもとまらぬ速さで呑込んでしまいます。欧米では、このように変った習性をもつアンコウのことをアングラーフィッシュ（魚を釣る魚）と呼んでいます。

（祖一記）